

プレスリリース

山口情報芸術センター／開館記念事業

ラファエル・ロサノ＝ヘメル

「アモーダル・サスペンション - 飛びかう光のメッセージ」

来たる 11 月 1 日に開館予定の山口情報芸術センターは、開館記念事業の中心企画として、現在世界的に最も注目されるアーティストの 1 人であるラファエル・ロサノ＝ヘメル (カナダ) による、山口市のための新作プロジェクト「アモーダル・サスペンション (amodal suspension)* - 飛びかう光のメッセージ」(開館記念委嘱作品) を 11 月 1 日 (土) ~24 日 (祝) 【期間中無休】 の会期で、6:00PM~6:00AM の夜間(12 時間)において開催します。

これは、センターを中心とした周辺域の公共空間において、アーティストが提案する新しいコミュニケーションを経験できる場を、いまここにいる公衆やネットユーザーに対して開いていくものです。作品をとおして、参加者が観客としてだけでなく、プロジェクトの主役となって、大規模な公共空間のなかで、コミュニケーション空間を共有・創造していく体験が可能となる斬新なプロジェクトです。

「アモーダル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」は、ロサノ＝ヘメルが、90年代後半から連続して世界各地で展開してきた、都市空間におけるパブリックアートシリーズ「リレーショナル・アーキテクチャー (関係性の建築)」の 8 番目の作品で、今回の山口市のプロジェクトが最も大きなスケール、かつアジアで最初のプロジェクトとなるものです。(※開館記念委嘱作品として、カナダをはじめとする海外のスタッフと、YCAM を中心とした日本側制作チームによる国際共同制作になります。)

*アモーダル・サスペンション：amodal とはおおよそ unlimited の意で用いられ、特定の形態をもたずに浮遊している状態を意味しています。可視化され、また非物質的な光の形態となったメッセージがノード (=サーチライト) からノードへとリレーされて、空中を飛びかっている様態をあらわします。

<内容解説>

光 (=メッセージ) の送信

「アモーダル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」は、山口情報芸術センターを中心とした公共空間を使ったプロジェクトです。センター前の中央公園周囲約 250m×80m 四方に複数のタワー (5~10m 高) を 20 箇所に楕円形に配置し、その上に強力なサーチライトを設置します。これらのライトは、参加者から送信されたショートテキストメッセージを光の強弱による信号に変換して通信する機能を持ち、1つのライトから光が点滅発信されると、受信側のライトからも光が放たれ、上空で 2つの光の交差交信が視覚化されます。さらにその光のメッセージ (点滅) が別の位置にあるライトへと次々とリレー交信されていきます。(最大 10本の送信が、同時並行的に飛びかいリレーされることが可能です。)

光 (=メッセージ) の受信

観客は、リレーされるショートテキストメッセージ (日/英) を、携帯電話、インターネットに接続されたコンピュータおよびセンター内に設置された情報端末から送信することができます。(www.amodal.net) 空中に放たれリレー中のメッセージは、同じように携帯電話、インターネットでキャッチする (www.amodal.net) ことができ、見知らぬ誰かに読まれることを願って送信されているメッセージ内容を、偶然的に受信することができます。その時受け取り読まれたメッセージは、センター中央のエントランスファサードに設置された大型スクリーンに表示 (日/英=自動翻訳) され、人々に公開されます。インターネットの専用サイト (www.amodal.net) ではメッセージの送・受信ができるほか、ライトがリレーされる模様のシミュレーションや、市内の各所の遠隔カメラからの中継映像を切り替えて見るすることができます。

光の公共空間

さまざまなメッセージが、光の点滅として同時に空中を飛び交い循環していく様子は、蛍が光で交信するように美しい光景となります。ロサノ＝ヘメルが山口に最初に訪れ、フィールドワークを行った際に、市内の中心を流れる河川で蛍を鑑賞する伝統や、提灯祭などの地域伝承の都市と光の結びつきを知見し、それが今回の作品の一つの動機になっています。地域の特性をいかす（サイトスペシフィック）プロジェクトであると同時に、この作品のさらに重要なメッセージは、非物質的な光が作り出す上空のヴァーチャルな建築的空間を、一般の人々＝参加者にオープンにしていくこと、彼らからのメッセージによって、はじめて新しい公共空間が創造されていくということです。「アモータル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」では、人々の本来不視の電子的コミュニケーションが大きなスケールで可視化され、刻々と変化する動的な光のメッセージによって、センター上空を覆う非物質的な光の屋根が作られていくのです。これらは15km遠方からも見ることができます。

新たなプラットフォームの創造

「アモータル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」では、メッセージは美しい光の点滅の集合となって、つねに空中を飛びかきながら誰かに読まれることを待っています。そこには効率化、高速化を志向する通信技術の発展とは違ったコミュニケーションの重要性が示唆されています。それはまた、ローカルとグローバルをつなぎ、さまざまな地域の異なった文化的・社会的背景をもつ人々のコミュニケーションをうながす新しいプラットフォームや共有体験を実現するものです。このプロジェクトはまた、山口情報芸術センターがめざすコンセプト、すなわち、人々や技術が新たに出会い、新たな経験や記憶がうまれていく「場」の創造を体現するものでもあります。

プロフィール：ラファエル・ロサノ＝ヘメル

Rafael Lozano-Hemmer

メキシコ系カナダ人アーティスト。

1967年メキシコ・シティ生まれ。1989年にコンコルディア大学（モントリオール）にて物理化学の学士号を取得。現在モントリオールおよびマドリッド在住。<http://www.lozano-hemmer.com/>

90年代以降、電子テクノロジーを通して、公共空間での人間の新しい関係可能性を実験的に追求する数々のプロジェクトを実施。特に90年代後半以降、「リレーショナル・アーキテクチャー（関係性の建築）」と呼ぶシリーズをスタート。さまざまな距離的遠隔〔地理的、時間的、階級的、文化的、技術的〕を背景にした、都市空間に内在する交換性、交通性、移動、移民などの隠微されたコミュニケーションを浮上させ、人々・建築・場の歴史などの要素をとり入れたサイトスペシフィック（場所特有）なプロジェクトを数多く実現する。これらはいずれも開催されるその都市や地域の人々に積極的に開かれた公共性の高いアート・プロジェクトであるとともに、コミュニケーションテクノロジーの発達と、それを生み出してきた背景である異文化間の交換／移動の歴史への深い問いかけともなっている。

ロサノ＝ヘメルの活動は、テクノロジーを駆使したパブリックアートからシアターおよびパフォーマンス・アートまで幅広く、これまで世界中の数多くの展覧会、フェスティバルへ招待されている。その代表的なものとして、ARCO アートフェア（スペイン）、ハバナ・ビエンナーレ（キューバ）、フィルム+建築ビエンナーレ（オーストリア）、モンテレイ美術館（メキシコ）、ボザール美術館（カナダ）、ヨーロピアン・メディアアート・フェスティバル（ドイツ）、SIGGRAPH（米国）、アルス・エレクトロニカ・フェスティバル（オーストリア）、リバプール・ビエンナーレ（イギリス）、イスタンブール・ビエンナーレ（トルコ）、ヴァレンシア・ビエンナーレなどがある。

<受賞歴>

2003年ワールドテクノロジー賞（サンフランシスコ）、2002年バウハウス賞（ドイツ）およびBAFTA英国アカデミー賞（イギリス）、2000年アルスエレクトロニカ（オーストリア）のインタラクティブアート部門グランプリ（ゴールデンニカ）受賞、同コンペティションではまた準グランプリを2度受賞。その他トロントのインタラクティブデジタルメディアアワードのベストインスタレーション賞（カナダ）、サイバースター賞（ドイツ）、米サンフランシスコ近代美術館主催のウェビーアワード特別賞（米国）、平成12年度文化庁メディア芸術祭優秀賞（日本）など数々の受賞歴をもつ。



<概要>

山口情報芸術センター／開館記念事業（委嘱作品）
「アモーダル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」

アーティスト：ラファエル・ロサノ＝ヘメル

ゲストキュレーター：四方幸子

会期：2003年11月1日（土）～24日（祝）（期間中無休）

開催時間：6:00PM～6:00AM（雨天決行）

場所：山口情報芸術センターおよび中央公園周辺野外（※関連展示があります）

アクセス方法：携帯電話、専用携帯端末、ホームページ

<http://www.amodal.net/>

・点灯セレモニー：11/1（土）18:45～

※最初のメッセージは国際宇宙ステーション滞在中のスペイン人宇宙飛行士ペドロ・ドゥケ氏より、宇宙から送信されます（予定）。

主催：財団法人山口市文化振興財団

共催：山口市、山口市教育委員会

後援：カナダ大使館、山口県、山口県教育委員会、財団法人山口県文化振興財団

助成：カナダ外務・国際貿易省

協力：NPO コミュニティデザイン協議会

協賛：松下電器産業株式会社、株式会社ファーストリテイリング

制作：山口情報芸術センター

※山口情報芸術センターでは、「アモーダル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」と同時開催で、11月1日（土）～12月28日（日）の会期で、国内外の6組のアーティスト〔岩崎マミ、exonemo（エキソニモ）、中居伊織、堀家敬嗣、ウォルフガング・ミュンヒ&古川聖、るさんちまん〕が新作で参加する「InterLab プロジェクト開館展」を開催します。展示は館内の公共空間各所を使ったもので、開館時間内（10:00～22:00）はいつでも体験鑑賞（入場無料）できます。

「アモーダル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」 特別関連企画
～プロジェクトをめぐる背景を考える～ レクチャーシリーズを開催します

場所：山口情報芸術センター・ホワイエ（入場無料／各回開場30分前）

11/2（日）19:00～

アモーダル・サスペンション開催記念レクチャー＋シンポジウム
「プロジェクトをめぐる～情報化時代とマルチカルチャリズムの行方」

出演：ラファエル・ロサノ＝ヘメル（アーティスト）
ブライアン・マスミ（モントリオール大学コミュニケーション学科助教授）
毛利嘉孝（九州大学大学院比較社会文化研究院助教授）
モデレータ：四方幸子（ゲストキュレータ、東京造形大学特任教授）
阿部一直（YCAMキュレータ）

11/9（日）14:00～ 「ホタルのハナシ」

講師：平野慎吾（ホタル飼育家／山口在住）

11/15（土）19:00～ 「柔らかいシェルター～都市の電子情報ネットワークと手描き地図」

講師：鈴木明（建築・都市ワークショップ主宰、神戸芸術工科大学教授）

11/16（日）14:00～ 中学生のための模擬授業「ハンバーガー1個から世界が見える」

講師：藤原和博（杉並区立和田中学校長）

11/22（土）19:00～ 「象徴としての光～都市と光の歴史をめぐる」

講師：田中純（東京大学大学院総合文化研究科助教授）

※ 講師、タイトルは変更の可能性があります。

お問い合わせ

山口情報芸術センター（広報：小滝）

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 EMAIL：info@ycam.jp

7530075山口市中園町7-7